

# “知 国ら のれ 面ざ 影る”





インフレのため、どの露店でも札束が山積みになっていた。



主要な産業の一つにラクダをはじめとする家畜の輸出がある。



インフラは整備しきれていない部分も多く、雨による洪水被害も珍しくないようだ。



ハルゲイサの街の眺望。二つの山は、街のランドマークでもある。



生鮮食品の市場は女性たちでにぎわっていた。



雑貨店を営む男性。



活気のあるハルゲイサの街並み。



街なかには日本の中古車が多く走っていた。ホテルの名前や会社名などがそのまま残る。



廃品や古布を組み合わせた家で暮らす少女。ソマリランドは比較的治安がいいとはいえ、まだまだ課題も多い。

ソマリア領内で独立を宣言している未承認国家、ソマリランド。現在ではソマリア全域が危険度4に指定されているため日本からは渡航できないが、幸運にも、私はそれ以前にこの地を訪れたことがある。飛行機が着陸態勢に入る。私の眼下には鮮やかなほど真っ白な荒野が一面に広がり、滑走路らしきものはどこにもない。期待と不安で高まる私の胸とは正反対に飛行機はぐんぐん降下し、そのまま荒野に着陸した。いや、ほとんど不時着といったほうがいい。ここがベルベラ国際空港だったのだ。ようこそ、ソマリランドへ！

ソマリランドの「首都」ハルゲイサを歩いてみます驚かされたのが、治安のよさだ。30年近い紛争状態にある南部ソマリヤの首都モガディシユでは、外国人は5人以上の武装兵士をボディガードとして雇わなければ30分も歩かぬうちに誘拐されてしまうといわれており、つねに最大限の緊張を強いられる。しかしここでは、まるで公園の散歩を楽しむかのよう自由に行くことができた。ソマリランドの人はたいへん親切で人懐っこい。道端でコーヒを飲んでみると、必ずといっていいほど話しかけられる。「私たちは国連からも国際社会からも認められていないけれど、自分たちの力で独立と平和を勝ち取り、維持しています。その

姿を外の人の見てもらいたいです」。古タイヤ販売をしているイブラヒムさんの言葉は静かだが、この「国」に対する確かな誇りがあった。10分後、私がコーヒを飲み終えて立ち去ろうとする、支払いはすでに彼が済ませていたことを知った。

街なかにはアフリカらしい雑踏もありながら、近代的なショッピングモールや西欧式のカフェも建ち並び、活気に満ちている。そんななか、路上でバナナの代金をガラケーから電子マネーで支払う婦人に目がとまった。よく見ると1食150円の町食堂にも、小さな商店にも、どこにでも電子マネーでの支払い用番号が書かれている。「お父さんは放牧ですつと地方に出ているよ。僕の学費？ デジタル通貨で送ってくれるんだ」。ハルゲイサ郊外で話したモハメドくん（12歳）はこともなげに話した。戸籍や銀行口座がない遊牧民でも簡単に、そして安全に貯蓄や送金ができる電子マネーは現金よりも一般的で、日本よりはるかに普及しているようだった。

ソマリランドの治安のよさと発展は、いったい何に支えられているのだろうか。南部ソマリヤとは国境を接し、人の行き来は自由だ。資源はなく、製造業も発展しているとはいえない。現地の政府関係者は「われわれは、各地に配置した質の

いい警官がパトロールすることにより独自のセキュリティシステムをつくり出し、南部ソマリヤや北部イエメンからの犯罪者の流入を防いでいます。またクラン（氏族）社会の構成により、ハルゲイサのような大都市でもよそ者が移住するとすぐに誰かしらの目にとまるので、確認するようにしています。国家収入に関しては港湾の税収や、ラクダをはじめとする家畜の輸出で賄っています」と語った。はたしてそれが本当に治安維持と経済発展のおもな理由なのかどうかは、最後まで疑問だった。しかし目に映る現実として、ここには奇跡ともいえる平和と発展が確かにある。

ソマリランドの名をグーグルマップで検索しても、地図上には国境も国名も表示されない。公式には存在しない「国」の日本の約半分の面積に、およそ400万人の人々。地図や地球儀には記されないアフリカの片隅で「自分たちはソマリランド人だ」と胸を張る優しい人々と穏やかな街並みが、いつまでも心に残った。

#### 久野武志(くのたけし)

1974年、愛知県生まれ。学生時代に世界を旅行中、アフリカに魅了されその社会問題に向き合うために独学でカメラマンになる。2006年よりケニアに移住し、アフリカ各地を撮影。「戦争が人間にどのような影響を与えるか」がメインテーマ。

\*治安がよいというのはあくまでも「危険度4」(選遊動色指定前の状況であり、現在の状態を伝えるものではありません。また本稿は、本地域の法的地位に対するJICAの見解を示すものではありません。



左：“歩きスマホ”の光景は日本と変わらない。中：電子マネー決済が主流。支払い用の番号を目立つように掲げている店が多い。右：携帯普及率が高いため、修理業者の店もよく見かけた。